III. 刊行報告書抄録

第 100 集　本川遺跡

本川遺跡

本川遺跡は岡崎市と境を接する豊田市南部の矢作川右岸に位置している。地理的には矢作川によって形成された沖積低地の北端に形成された幅 100m ほどの微高地上に立地する縄文晩期から戦国時代にかけての集落跡である。

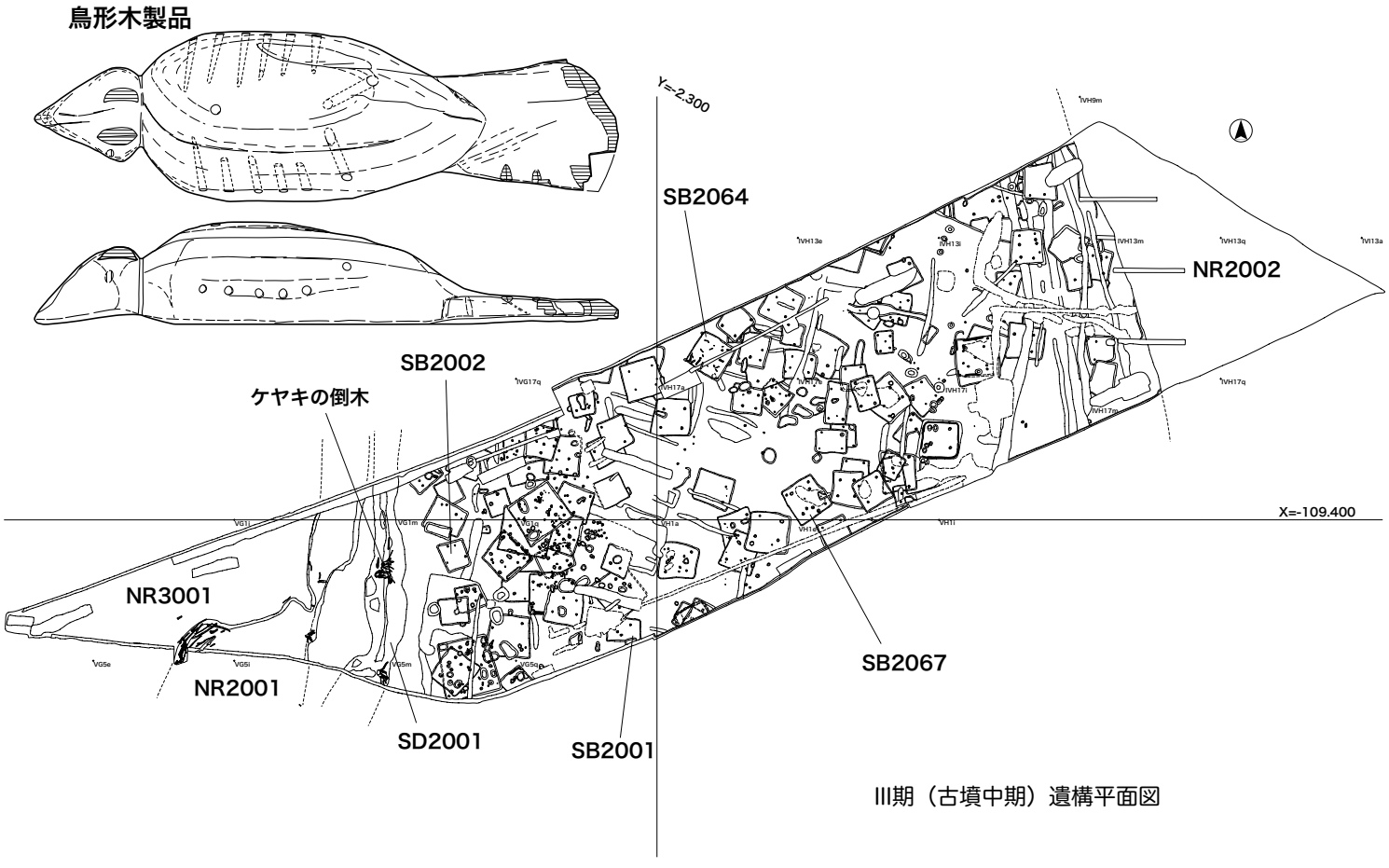
。期（縄文晩期～弥生中期前葉）の遺構は溝と土坑で、溝は数条が平行して走ることから、畠の畝間の可能性がある。

「期（弥生中期末～古墳前期）は微高地上で竪穴住居 12 棟と掘立柱建物 1 棟、谷の落ち際で溝数条を確認した。

」期（古墳中期）が本遺跡の最盛期で、微高地上に竪穴住居 93 棟のほか、溝・土坑を多数確認した。微高地の西端近くに南北方向の溝が 1 条走り、その中から多量の土器と木製品が出土している。溝際には一辺が 7 m を超える大型の竪穴住居が数棟建つ。また、作り付けのカマドを有する竪穴住居も 2 棟確認されている。このほか、西側の谷からは立体的な作りの鳥形木製品も出土している。ほぼ 5 世紀前半を中心とする比較的短期間の集落で、竪穴住居の重複状況からみて 4 時期程度の変遷が想定できる。未調査部分も含めると、竪穴住居は 30 棟程度の集落と推定することが可能である。

、期（古墳後期～平安時代）は溝数条を確認したのみで、明確な生活の痕跡は認められない。

・期（中世）および ヲ期（戦国時代）は東側の谷が埋没し、区画溝を有する屋敷地が形成される。（樋上　昇）



III期（古墳中期）遺構平面図

報告書抄録

ふりがな	ほんがわいせき
書名	本川遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第100集
編著者名	樋上　昇・佐藤公保・川添和暁・鬼頭　剛・堀木真美子・上田恭子・森　勇一・藤根　久・今村美智子・山形秀樹・Zauri Lomtatize・植田弥生・池谷勝典・馬場伸一郎・望月明彦
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
ほんがわ 本川	あいちけんとよたし 愛知県豊田市 えかくちょう 永覚町 たいしょう ほんがわ 大正・本川	23211	63472	35度 07分 7秒	137度 8分 19秒	199804 ～ 199903	15,500	第二東海自動車道建設に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本川	集落	縄文 ～ 弥生	竪穴住居 掘立柱建物 溝 土坑	縄文土器 弥生土器 石器	畠遺構？
		古墳	竪穴住居 溝 土坑	土師器 須恵器 木製品 玉 石製品	カマド付住居 鳥形木製品
		古代	溝 土坑 自然流路	土師器 須恵器	
		中世	区画溝 土坑	灰釉系陶器 陶磁器 土師器	屋敷地
		戦国	区画溝 井戸 土坑	灰釉系陶器 陶磁器 土師器	屋敷地

第 107 集　猫島遺跡

本川遺跡

本川遺跡は岡崎市と境を接する豊田市南部の矢作川右岸に位置している。地理的には矢作川によって形成された沖積低地の北端に形成された幅 100m ほどの微高地上に立地する縄文晩期から戦国時代にかけての集落跡である。

。期（縄文晩期～弥生中期前葉）の遺構は溝と土坑で、溝は数条が平行して走ることから、畠の畝間の可能性がある。

「期（弥生中期末～古墳前期）は微高地上で竪穴住居 12 棟と掘立柱建物 1 棟、谷の落ち際で溝数条を確認した。

」期（古墳中期）が本遺跡の最盛期で、微高地上に竪穴住居 93 棟のほか、溝・土坑を多数確認した。微高地の西端近く



報告書抄録

ふりがな	ねこじまいせき
書名	猫島遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第107集
編著者名	洲嵜和宏・蔭山誠一・川添和暁・赤塚次郎・石黒立人他
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
ねこじま 猫島	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 ちあきちょう 千秋町	23203	02106	35度 16分 43秒	136度 51分 14秒	19990601 ～ 20000804	32,000	高速道路 パーキング エリア建設

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
猫島	集落			縄文土器・石鏃	
		弥生	環濠・大溝 大型掘立柱建物 竪穴住居・土壙 方形周溝墓 木棺墓 墳丘墓	弥生土器・石器	管玉・玉造関係石器 土製人面
		古墳	土壙・井戸	須恵器・土師器	
		古代	掘立柱建物 竪穴住居 井戸・溝・土壙など	須恵器・土師器 灰釉陶器	墨書付灰釉陶器
		中世	方形区画溝 掘立柱建物 土壙・溝など	灰釉系陶器 土錘・銭貨	

第 110 集　権現山遺跡

本川遺跡

本川遺跡は岡崎市と境を接する豊田市南部の矢作川右岸に位置している。地理的には矢作川によって形成された沖積低地の北端に形成された幅 100m ほどの微高地上に立地する縄文晩期から戦国時代にかけての集落跡である。

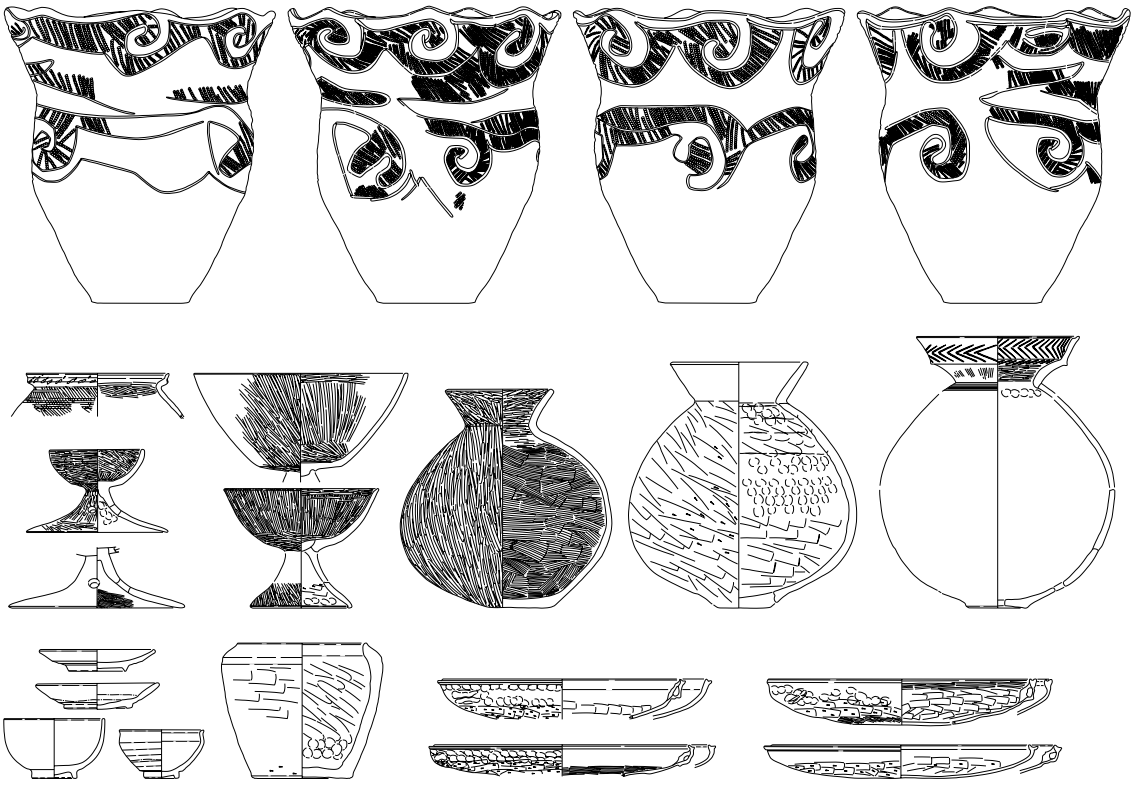
。期（縄文晩期～弥生中期前葉）の遺構は溝と土坑で、溝は数条が平行して走ることから、畠の畝間の可能性がある。

「期（弥生中期末～古墳前期）は微高地上で竪穴住居 12 棟と掘立柱建物 1 棟、谷の落ち際で溝数条を確認した。

」期（古墳中期）が本遺跡の最盛期で、微高地上に竪穴住居 93 棟のほか、溝・土坑を多数確認した。微高地の西端近くに南北方向の溝が 1 条走り、その中から多量の土器と木製品が出土している。溝際には一辺が 7 m を超える大型の竪穴住居が数棟建つ。また、作り付けのカマドを有する竪穴住居も 2 棟確認されている。このほか、西側の谷からは立体的な作りの鳥形木製品も出土している。ほぼ 5 世紀前半を中心とする比較的短期間の集落で、竪穴住居の重複状況からみて 4 時期程度の変遷が想定できる。未調査部分も含めると、竪穴住居は 30 棟程度の集落と推定することが可能である。

、期（古墳後期～平安時代）は溝数条を確認したのみで、明確な生活の痕跡は認められない。

・期（中世）および ｦ期（戦国時代）は東側の谷が埋没し、区画溝を有する屋敷地が形成される。（樋上　昇）



報告書抄録

ふりがな	ごんげんやまいせき
書名	権現山遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第110集
編著者名	早野浩二・鵜飼雅弘・鬼頭　剛・上田恭子・藤根　久・今村美智子・小村美代子
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
ごんげんやま 権現山	あいちけんいわくらし 愛知県岩倉市 のよりちょう 野寄町	23228	11052	35度 16分 7秒	136度 51分 2秒	19960605～19960719 19970701～19971107 19990510～199912 20010611～20011015	500 1,800 500 2,350	五条川右岸流域下水道事業に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
権現山	集落	縄文	竪穴住居・土坑	縄文土器・石器・土偶？	低地部における縄文時代集落
		弥生～古墳	竪穴住居・墳丘墓・溝・土坑	弥生土器・土師器	弥生時代後期から古墳時代前期の墳丘墓群
		古墳	円墳・横穴式石室	土師器・須恵器・鉄刀子	
		奈良～平安	竪穴住居・溝	土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦	
		鎌倉～室町	溝・土坑	土師器・灰釉系陶器・中国陶磁・古瀬戸ほか	
		江戸	溝・土坑・井戸	瀬戸美濃窯産陶器・瓦・土師器・砥石ほか	

第 111 集　木戸城遺跡・古新田遺跡

木戸城遺跡（愛知県安城市）

1　検出できた遺構のうち、木戸城跡に関連するものには、土塁・掘立柱建物・溝・土坑などがある。土塁は調査区の東西で検出されているが、SQ01は残存状況が比較的良好となる。改修が確認されており、規模は当初が基底部幅7.9m・残存高1.1m、改修後が基底部幅10.3m・残存高1.7mをはかる。

2　主郭内部ではSB06が検出されている。規模は2m×3.6m、柱穴は検出面からの深さが0.9mにも及び、建物規模の割に柱穴が大きくて深い。建物に高さを要求した結果と考えられる。

3　出土遺物は乏しいが、SK167資料が比較的まとまっている。廃棄土坑と考えられ、施釉陶器・灰釉系陶器・土師器のほか、壁土状の焼土塊や、塊状の炭化米がある。

4　調査区内で飛鳥時代～奈良時代の集落遺跡も確認された。竪穴住居や掘立柱建物・土坑がある。竪穴住居は3棟確認され、このうち残存状況が良好なSB02は、長辺5.3m、短辺3.9mとなる。　（池本正明）

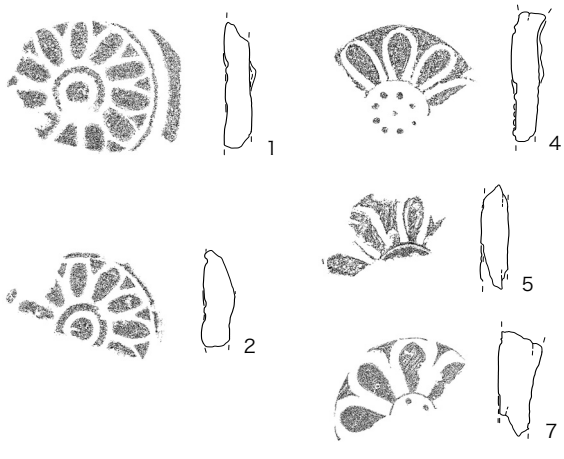


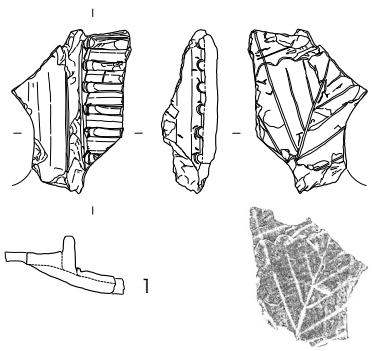
古新田遺跡（愛知県西尾市）

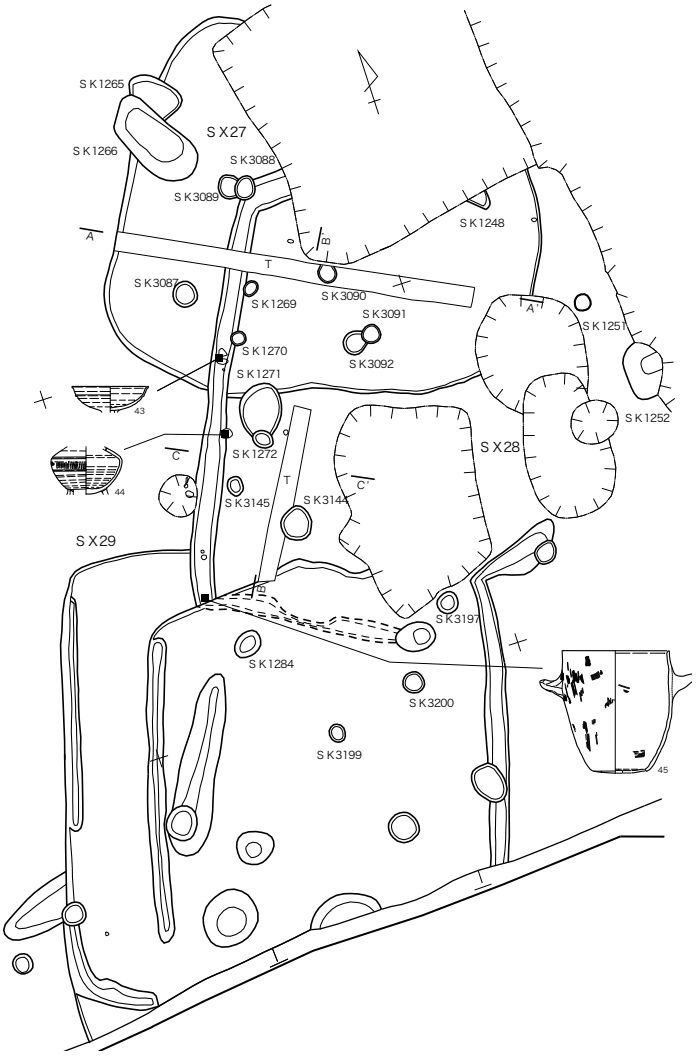
1　飛鳥時代から奈良時代までの竪穴住居 39 棟を検出した。本遺跡の南側には志貴野廃寺推定地が位置している。

2　出土遺物には古代瓦や瓦塔がが見られる。県内 23 ヶ所の寺院跡・瓦窯跡の瓦 253 点の胎土分析を実施し、結果を掲載している。

3　中世の溝・井戸・焼土土坑なども検出している。







報告書抄録

ふりがな	きどじょういせき・こしんでんいせき
書名	木戸城遺跡・古新田遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第111集
編著者名	池本正明・松田　訓・鈴木　裕・神谷巳佳 小嶋廣也・武井繁樹・鬼頭　剛・(株)第四紀地質研究所・(株)パレオ・ラボ
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
きどじょう 木戸城	あいちけんあんじょうし 愛知県安城市 きどちょう 木戸町 ひがしやしき 東屋敷	23212	5445	34度 53分 31秒	137度 5分 26秒	20001010 ～ 20001207	1,400	矢作川改修に伴う事前調査
こしんでん 古新田	あいちけんにしおし 愛知県西尾市 しきのちょう 志貴野町 みやまえ 宮前	23213	55230	34度 53分 19秒	137度 5分 3秒	20001121 ～ 20010330	4,100	

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
木戸城	集落	飛鳥 ～ 奈良	竪穴住居３棟 土坑 掘立柱建物２軒	須恵器 土師器	
	城跡	室町	掘立柱建物１軒 柵、土坑、溝 土塁３条	灰釉系陶器 土師器 施釉陶器 貿易陶磁	
古新田	集落	古代	竪穴住居39棟 土坑 掘立柱建物23軒 溝	須恵器、土師器 灰釉陶器、製塩土器 土錘、古代瓦 瓦塔	
		中世	掘立柱建物５軒 溝 井戸４基 土坑墓 焼土土坑	灰釉系陶器 土器 施釉陶器 焼締陶器	
		江戸か	堤防跡		

第 112 集　八王子遺跡

第 112 集　八王子遺跡

遺跡は瀬戸市街北東部の丘陵地帯に位置する縄文時代および中世・近世の複合遺跡である。調査範囲は縄文時代早期後葉～前期初頭の集落に近く、特に粕畑式を主体とする当該時期の条痕文系土器・石器の豊富かつ良好な資料が得られた。この地域の早期後葉の中心であった可能性は高く、山間部に立地する早期後葉の集落としては、県下でも代表的な遺跡として今後評価されよう。

出土土器では押型文土器、茅山下層式、元野式、八ッ崎Ⅰ式、粕畑式、上ノ山式、入海式などの早期後葉の資料を主に、若干量の前期初・中葉、中期後葉の土器があり、なかでも土器装飾に認められた多種多様な特徴が「粕畑式」の内容をさらに充実させるものと考えられる。出土石器類は総数で約 3,200 点あり、これには石鏃 319 点、石匙 21 点などが含まれる。報告では、包含層資料については器種単位でまとめ、また一括性の高い土器資料と共伴する石器群を特に抽出して記述を行った。

中世では施釉陶器類がまとまって出土しているものの、壺類、焼成不良品、窯道具などの占める割合が高い。一般的な消費地でみられる構成とはやや異なっており、恒常的な居住地ではなく墓域あるいは作業場等の空間であったと想定した。

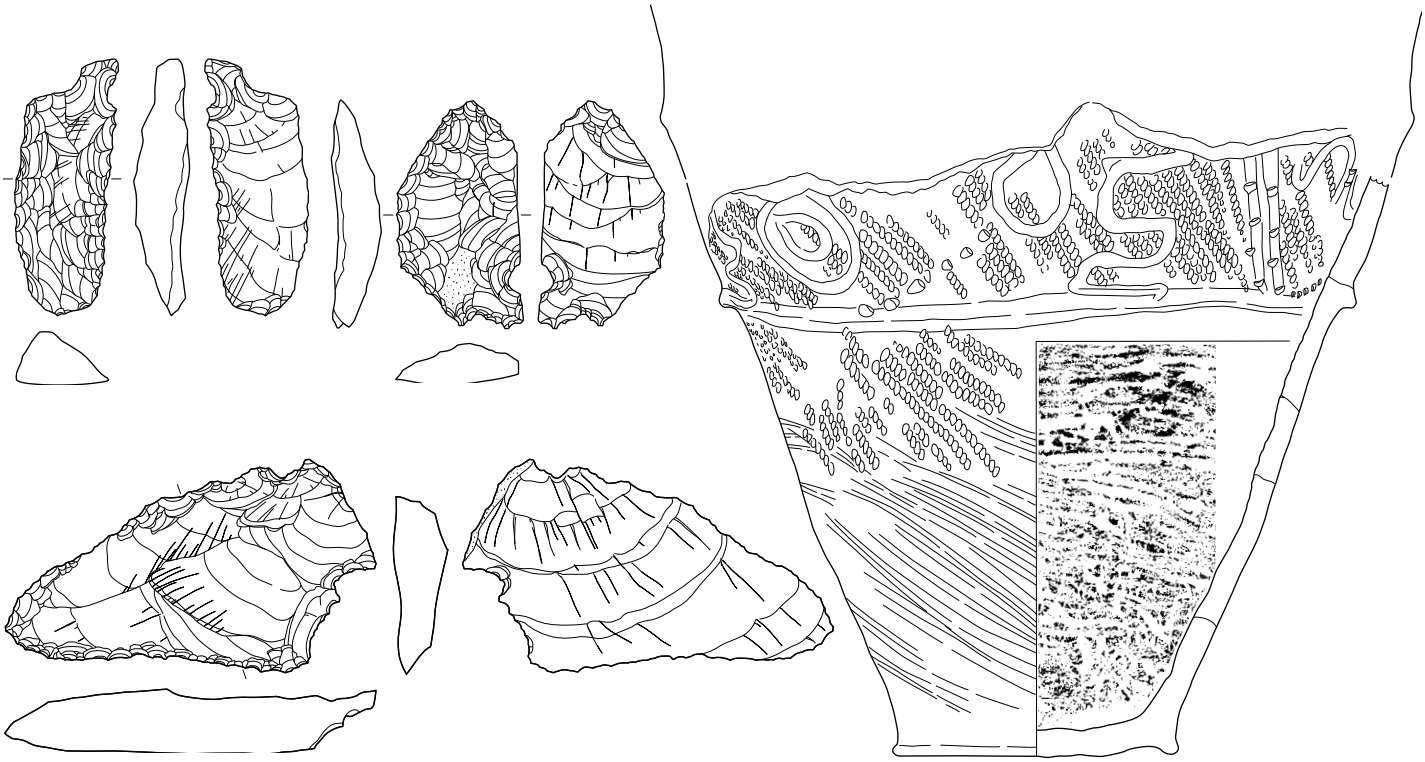
自然科学分析では、黒曜石を用いた石器の理化学分析、縄文土器胎土中の重鉱物分析、縄文土器（粕畑式）付着の炭化物の放射性炭素年代測定を行った。

◆本文 84 頁、図版 76PL、写真図版 31PL

◆ CD-ROM 収録データ

○報告書 PDF 版　　○遺構登録一覧表

○土器胎土分析サンプルデータ　　○遺物登録一覧表



出土石器（石匙）と茅山下層式土器

報告書抄録

ふりがな	はちおうじいせき
書名	八王子遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第112集
編著者名	武部真木(編集)・鬼頭　剛・川添和暁
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
はちおうじ 八王子	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 はちおうじちょう 八王子町	23204	03951	35度 13分 29秒	137度 8分 15秒	199810～199903 200001～200003 200005～200008 200011～200012 200108～200208	5,700	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八王子	集落	縄文 早期	土坑 ピット	縄文土器 石器	
		鎌倉 室町	土坑 ピット 溝	灰釉系陶器 瀬戸美濃産陶器 近世陶磁器 鉄滓	

第114集　石堂野B遺跡

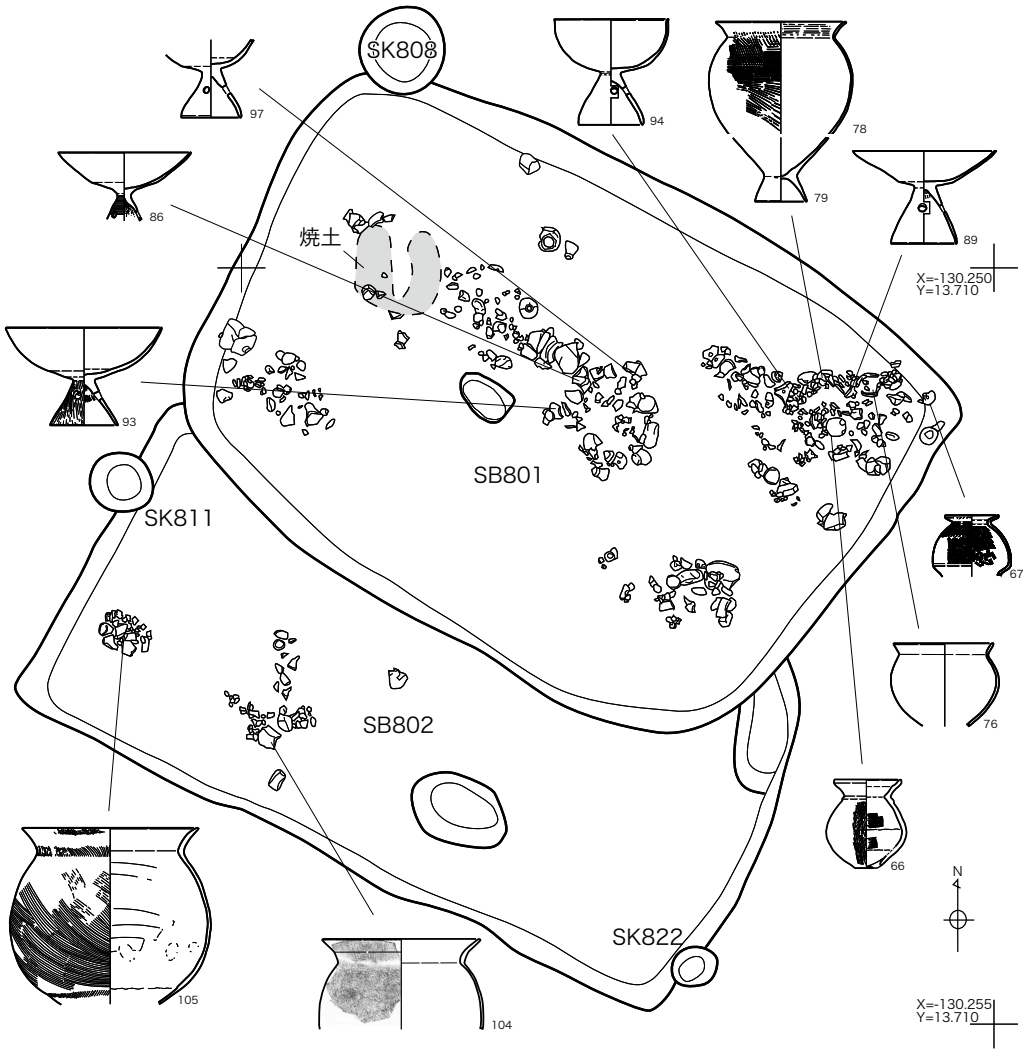
石堂野B遺跡は、三河湾の最奥部、宝飯郡御津町に位置し、南東方向に向かってゆるやかに下る舌状の高まりと、小河川によって開削された浅い谷上に立地する。調査では、弥生時代末から古代にかけての集落跡が検出され、同時期及び近世の墓域も検出された。

調査地点より舌状台地を約300m上った地点には、本センターが昭和60年度に調査を行った「石堂野遺跡」が所在する。両地点で確認された遺物は、時期的に整合性をもつため一連の遺跡と考えることも可能であるが、調査地点間が同一の文化面をもってつながるとは断定できないため、本調査地点名は、「石堂野B遺跡」として報告した。

弥生時代末～古墳時代初頭にかけての遺構は、竪穴住居跡、方形周溝墓が検出され、出土遺物の時期はいずれも欠山期の後半ととらえられるものであった。

古墳時代後期の遺構では、脆弱な規模ながら古墳の周溝の可能性が考えられるものが検出され、円筒埴輪片も検出された。

平安時代、中～近世の遺構では、掘立柱建物跡と思われる柱穴列が、やや距離をとりながら方向・規模を同じくして並立して検出された。この他に近世と思われる火葬墓跡も検出された。　（松田　訓）



SB801・802平面図(1/50)

報告書抄録

ふりがな	いしどうのびーいせき
書名	石堂野Ｂ遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第114集
編著者名	松田　訓・山形秀樹・植田弥生((株)パレオ・ラボ)
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
いしどうのびー 石堂野Ｂ	あいちけんほいぐん 愛知県宝飯郡 みとちょう 御津町 おおあざひろいし 大字広石	23604	-	34度 49分 43秒	137度 18分 46秒	20000508 ～ 20000927	6,400	県道大塚・国府線建設

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石堂野Ｂ	集落 墓域	弥生末～ 古墳初期	竪穴住居 方形周溝墓	土器	
		古墳後期	溝	須恵器 円筒埴輪	
		平安時代	土坑	緑釉陶器 円面硯 灰釉陶器	
		中～近世	住居・火葬墓 土壙墓	銭貨	

第 116 集　凧山屋敷遺跡

烏帽子遺跡

烏帽子遺跡は知多半島の北部、東海市高横須賀町烏帽子に所在する。遺跡は伊勢湾に面する浜堤上に立地し、現地表面標高は約４m、遺構検出面は２～３m であった。

遺跡の時期は大きく５期に区分できる。

Ⅰ期（縄文晩期から弥生時代）の遺構は土坑墓が検出されたのみであるが、遺物は比較的豊富であった。石器も出土しているので集落が存在したと考えられる。

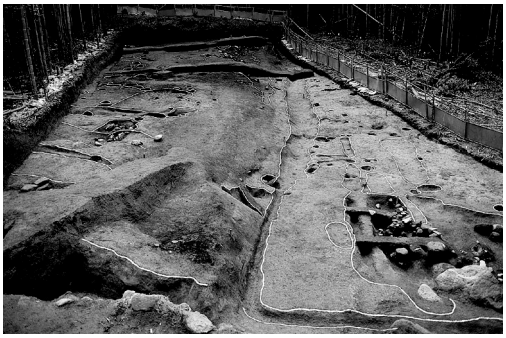
Ⅱ期（古墳時代）はガラス製勾玉・小玉、管玉がベンガラとともに土坑墓から出土した。時期は古墳時代中期から後期初めにかけてであり、当時付近は墓域であったろう。

Ⅲ期（古代）は遺跡の中心をなす時期であり、竪穴建物や土坑が多数みつかり、遺物も豊富であった。製塩集落であったと考えられる。

Ⅳ期（中世）は溝が１条検出されたのみで、実態は不明である。

Ⅴ期（江戸時代）は横須賀御殿もしくは代官所の時代であり、大規模な溝（堀）や横須賀御殿窯関連の遺物が出土した。

（石黒立人）



Ａ区戦国時代の遺構



Ｂ区SK441出土状況



中世鳥形土製品



加藤春岱銘陶器

報告書抄録

ふりがな	たこやまやしきいせき
書名	凧山屋敷遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第116集
編著者名	宇佐見　守・藤岡幹根・永井宏幸
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
たこやまやしき 凧山屋敷	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 たこやままち 凧山町	23204	不明	35度 13分 36秒	137度 7分 52秒	20020117 ～ 20020330	1,600	県道瀬戸設楽線建設に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
凧山屋敷	集落			縄文土器、石鏃	
		古代	竪穴住居　３棟	土師器、須恵器 製塩土器、灰釉陶器	製塩土器
		中世	竪穴状遺構　２基	古瀬戸製品、山茶椀 土師器、中国産青磁 銭貨、砥石	鳥形土製品
		戦国	大型土坑　１基 掘立柱建物　４棟 溝　４条、土坑など	大窯製品、常滑産甕 土師器、中国産磁器	大量の窯道具
		近世	井戸　２基 水回り施設　１基 溝、土坑など	瀬戸美濃産陶磁器 土師器	春岱銘の陶器
		近代	道路状遺構　１本 溝３条など	陶磁器	

第 117 集　烏帽子遺跡II

烏帽子遺跡

烏帽子遺跡は知多半島の北部、東海市高横須賀町烏帽子に所在する。遺跡は伊勢湾に面する浜堤上に立地し、現地表面標高は約４m、遺構検出面は２～３m であった。

遺跡の時期は大きく５期に区分できる。

Ⅰ期（縄文晩期から弥生時代）の遺構は土坑墓が検出されたのみであるが、遺物は比較的豊富であった。石器も出土しているので集落が存在したと考えられる。

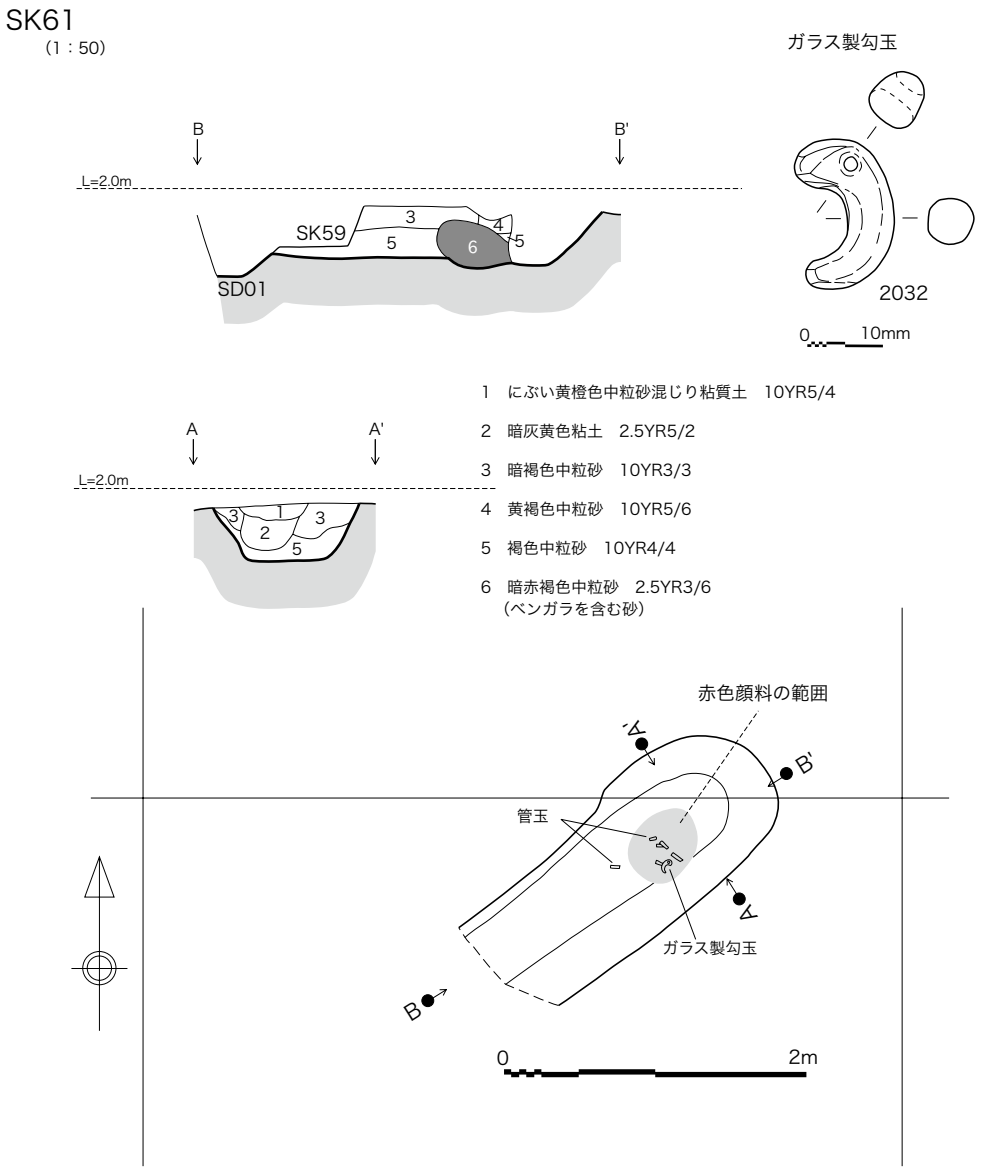
Ⅱ期（古墳時代）はガラス製勾玉・小玉、管玉がベンガラとともに土坑墓から出土した。時期は古墳時代中期から後期初めにかけてであり、当時付近は墓域であったろう。

Ⅲ期（古代）は遺跡の中心をなす時期であり、竪穴建物や土坑が多数みつかり、遺物も豊富であった。製塩集落であったと考えられる。

Ⅳ期（中世）は溝が１条検出されたのみで、実態は不明である。

Ⅴ期（江戸時代）は横須賀御殿もしくは代官所の時代であり、大規模な溝（堀）や横須賀御殿窯関連の遺物が出土した。

（石黒立人）



報告書抄録

ふりがな	えぼしいせき
書名	烏帽子遺跡II
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第117集
編著者名	石黒立人・小村美代子・植田弥生・黒澤一男・山形秀樹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
えぼし 烏帽子	あいちけんとうかいし 愛知県東海市 たかよこすかちょう 高横須賀町 えぼし 烏帽子	23222	43062	35度 00分 55秒	136度 53分 15秒	20000413 ～ 20000927	2,500	国道153号線建設に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
烏帽子	集落	縄文		縄文土器 独鈷石	
		弥生	竪穴住居 土坑墓	弥生土器 有孔磨製石鏃	
		古墳	土坑 墓	ガラス製勾玉 ガラス小玉 管玉	土坑内部からベンガラとともに出土
		古代	竪穴住居 土坑	須恵器 土師器	
		室町	溝	山茶椀	
	その他	江戸	溝	陶磁器類	御庭焼窯関連窯道具類が出土

第118集　巡間E窯跡

烏帽子遺跡

烏帽子遺跡は知多半島の北部、東海市高横須賀町烏帽子に所在する。遺跡は伊勢湾に面する浜堤上に立地し、現地表面標高は約４m、遺構検出面は２～３m であった。

遺跡の時期は大きく５期に区分できる。

Ⅰ期（縄文晩期から弥生時代）の遺構は土坑墓が検出されたのみであるが、遺物は比較的豊富であった。石器も出土しているので集落が存在したと考えられる。

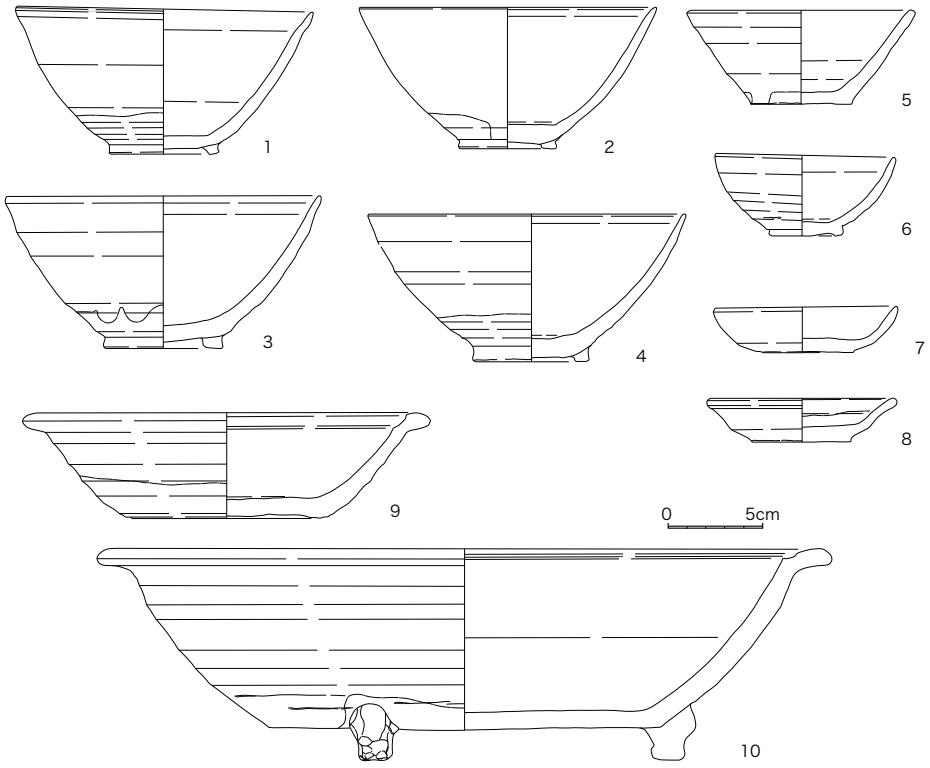
Ⅱ期（古墳時代）はガラス製勾玉・小玉、管玉がベンガラとともに土坑墓から出土した。時期は古墳時代中期から後期初めにかけてであり、当時付近は墓域であったろう。

Ⅲ期（古代）は遺跡の中心をなす時期であり、竪穴建物や土坑が多数みつかり、遺物も豊富であった。製塩集落であったと考えられる。

Ⅳ期（中世）は溝が１条検出されたのみで、実態は不明である。

Ⅴ期（江戸時代）は横須賀御殿もしくは代官所の時代であり、大規模な溝（堀）や横須賀御殿窯関連の遺物が出土した。

（石黒立人）



巡間Ｅ窯跡SY02出土遺物

報告書抄録

ふりがな	はざまいーかまあと
書名	巡間Ｅ窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第118集
編著者名	川添和暁・織部匡久・八木佳素実・植田弥生・藤根　久・Zauri Lomtatize
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
はざまいーかま 巡間Ｅ窯	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 はざまちょう 巡間町	23204	03790	35度 15分 30秒	137度 8分 16秒	200104 ～ 200106	1,400	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
巡間Ｅ窯	窯業遺跡	中世	窯体２ 作業施設 ロクロピット 土坑 灰原	灰釉系陶器(山茶椀) 施釉陶器(古瀬戸)	窯体構造(ダンパー部分)の残存が良好 窯体内から古瀬戸後期Ⅰ段階の一括遺物
	遺物散布	縄文		縄文土器 石鏃 磨製石斧	
		古代末 ～ 中世初		灰釉陶器 灰釉系陶器(山茶椀)	